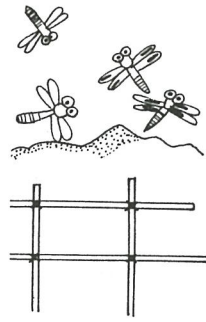


「あおくて、くさいものがよく食べられるね」と、いわれました。あおくてくさいものとは、「バセリ」のことです。おじいちゃんに、

「そんなに食べてだいじょうぶか、おなかこわすなよ。おまえのおなかは、どうなってるんだ。食べた物は、どこにいつちやうんだろう。」などとよく言われます。

みんなは、わたしに、
「すききらいがないからけんこうでいるんだよ。これからもなんでもたべな。」
といます。これからもすききらいがないように、何でも食べようと思います。すききらいがなければ、けんこうな毎日がおくれるからです。



シリーズ ⑧

我が家の家庭教育

父親の役割

小川台 林 英雄

親子四人、中学生二人の父親です。父親と言っても、それらしい役割をする様になったのは、この三、四年の事です。それまでは、仕事の関係も多少ありましたが、夜遅く帰る事が多く、子供達と話



5年 日色 史子

とんぼ

とんぼがとんでいる。
秋になったんだなあ、
三びきならんで飛んだ。
とんぼとりをやった。

木の前や、電線などに止まっているのを、
あみでさつと、とる。
とんぼがとれなかった。
にげられて、しゃくだった。
とれた時はとてもうれしい。
止まっているとんぼよりも、
飛んでいるとんぼをつかまえた方が
うれしい。

とんぼは、よく見ると、目玉がかわいい。

をするのも週二〜三回で、家庭内のことは、ほとんど母親まかせでした。

昔の考えかも知りませんが、父親と言うのは、生活に仕事に一生懸命生きている姿を見せれば、子供は、その後しろ姿で育つと考えており、また自分達の父親もそうであったと思います。

しかし、非行の低年齢化がさげばれている現在、そうとばかりは言っておられません。

その芽をつんでやるのも父親の重要な役割であると感じたのであります。

子供も小学校の高学年になってくると、母親に多少反発する様になってまいりま

はねがすきとおっていてすてきだ。すつきりした日に、空を飛ぶのは、気持ちがいいだろう。
とんぼが、秋になったよと教えてくれた。

俳句・短歌会

鈴木 恵美

緋に燃ゆる鶉頭の花葉も茎も

朱に染みつゝ秋深みゆく

伊藤 鏡子

炎天の中をトラック走り去る

満載の藁の匂い残して

山崎平八郎

黒板の文字を追いつく

生徒の眸の輝くかげを美しと見き

椎名 静子
信ずるも苦しきならむ少年の
補導に夫は夜も日も分かず

伊藤 定男
ひさびさの一夜の雨に潤いて
大根畑の発芽そろいぬ



岩沢 芳江

野菊咲く直ぐなる道をペタル踏み

秋風截りて心さわやか

竹内 紀葉

明暗を分くる人智は極限に

青き地球を穢さむとすや

す。反発するということは、子供が成長してきた証拠で、うれしくもありまた父親の出番が回ってきたのだと感じられました。
それからは、学校のこと、友達のことなど、子供と話す機会を多くもち、親の知らない子供達の生活を知る心がけました。
小学生時代は、遊び第一、勉強第二と

考え、あまり勉強の事は言わず遊びと勉強の区別をつけ生活の習慣づけを大事に、また子供を叱る時は、簡単明りように、ほめる時は一生懸命ほめることだと思います。

最後に、子供が悩み事がある時相談に乗れる様な父親に、そして子供が友達を大事に、健康で思いやりのある人間に成長していく様後からそっと見つめていきたいと思えます。